

流域の川をたずねて (10) ～練馬区総合治水計画を改定しました～

練馬区の治水対策は、昭和57年頃から雨水の流出を抑える「流域対策」として雨水流出抑制施設の整備を進めてきました。また、平成2年6月に「練馬区総合治水計画」を策定し、雨水流出抑制対策の指導および助成事業などを実施してきたところです。

しかし、近年東京都区部で頻発する局所的な集中豪雨によって浸水などの被害が発生しています。このような豪雨による被害を軽減していくため、区民の皆さまのご意見を伺いながら「練馬区総合治水計画」を改定しました。(※計画の詳しい内容は、練馬区HP等でご覧いただくことができます。)

【主な改定内容】

- ・公共施設や開発事業に対する雨水流出抑制施設の設置基準を見直し、10年後の整備目標の達成を目指します。
- ・新たに計画に「家づくり・まちづくり対策」、「避難方策」を位置づけ、充実を図ります。

本連載は練馬区土木部計画課さんより寄稿いただきました。

練馬区総合治水計画 (平成23年度改定)



平成24年(2012)10月

練馬区

イベントカレンダー

「第16回 越戸川まつり」

とき 10月20日(土)
10:00～13:00

場所 赤池親水公園(和光市新倉5-9)

内容 ポート遊び、体験コーナー(竹細工、水質検査、落書)、各種環境団体の展示コーナー(太陽光発電、川活動など)、フリーマーケット、出店など
※ポート遊び希望者の申込:氏名と参加希望の旨を10月18日までに和光市環境課(電話 048-424-9118、FAX 048-464-1192)(費用:無料)

主催 和光自然環境を守る会

問合せ先

TEL: 048-466-4503 (峯岸)



「白子川源流まつり」

とき 10月28日(日)
12:00～15:30

場所 大泉井頭公園
(練馬区東大泉7-34)

内容 <ステージ案>はらっぱ音楽隊、源流談議「テーマ未定」、大泉南小学校4年生の「白子川調べ学習」の発表ほか
<出展案>雨水浸透コーナー、古本の出店、源流に最も近い縄文遺跡の展示、「わら筆」販売、子どもの遊び広場、昔の遊びと笹舟づくり、源流の生き物とホタルの幼虫展示、練馬まちづくりセンターほか

主催 白子川源流まつり実行委員会

問合せ先

TEL: 03-3923-8430(菅沢) / 03-3921-2521(東谷)



事務局だより

第2回連絡会を開催しました!

9月11日(火)に第2回新河岸川流域川づくり連絡会が開催されました。第2回連絡会では、2月に開催予定の「第8回川でつながる発表会」のテーマや開催場所について検討し、練馬区・川越市を候補地として検討が進められることとなりました。

また、勉強会では、埼玉県河川砂防課より、埼玉県が取り組む「雨水流出抑制対策」について情報提供をいただき、参加者と意見交換をしました。



第2回連絡会のようす

川づくり連絡会に参加してみませんか?

新河岸川流域川づくり連絡会は、原則第2火曜日または第2金曜日で年4回程度開催します。参加希望の方は、下記連絡先までお問い合わせください。(開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。)

しんぶん「里川」掲載情報を大募集します!

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙またはFAX・メールにて下記連絡先までお寄せ下さい。

■ 連絡先

新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)
〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
URL <http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/>
E-mail arage-shingashi@ktr.mlit.go.jp

THE SHINGASHI BASIN NEWS 新河岸川流域しんぶん



VOL. 68

発行 ●新河岸川流域川づくり連絡会(荒川下流河川事務所 調査課内)
住所 ●東京都北区志茂5-41-1 TEL03-3902-3220 FAX03-3902-2346
発行日 ●平成24年(2012)10月1日



切り絵 毛利将範

目次

- P2～3 新河岸川流域の活動報告 in 2012
- P4 連載: 流域の川をたずねて (10)、
イベントカレンダー、事務局だより
- P5 特集: その水はどこからきて?どこへいく?
水の行き先を追ってみよう!

なが なが なが なが なが なが なが なが なが なが
長く続いていた暑さがやっと和らぎ、周りの景色も少しずつではありますが、秋色に衣替えを始めています。
今号では、7～8月の川まつりを中心に新河岸川流域内の活動状況を報告します。連載では、練馬区で改定された総合治水計画を紹介し、特集では、北区立浮間小学校のみなさんにご協力をいただきながら行った水循環に関する授業の様子や、その中で生徒のみなさんが水循環について学んだことを紹介します。

新河岸川流域の活動報告 in2012

今年度も、新河岸川流域の各地で市民を中心とした川の活動が活発に行われています。その一つである川まつりでは、流域のみんなで創意工夫をこらしながら毎年様々な企画が実施されています。新河岸川流域川づくり連絡会も、パネル展示などで協力させていただきました。

今号では、5月から8月までに開催された川まつりについて、各川まつりの特徴や、元気に遊ぶ子どもたちをのようすを中心に報告します。



5/26-27 に開催された蔵敷公民館まつりにおいても、空堀川を考える会の協力のもと総合治水に関するパネルを展示させていただきました。

5/27 空堀川 「空堀川川まつり」 【主催】空堀川・川まつり実行委員会

「空堀川川まつり」が空堀川で開催されました。和太鼓の演奏やお囃子（はやし）などによるにぎやかな雰囲気の中、子どもたちは川の中に入ったり、ゴムボートやカヌーに乗ったり、カモレースに夢中になったりしていました。空に舞うこいのぼりの下、元気に遊ぶ子どもたちの姿が印象的でした。また会場では、地域の方々によるフリーマーケットや市民団体、警察、消防署、行政などの取組を紹介する展示があり、地域の人々のつながりを垣間見ることができました。



7/14-15 落合川 「第19回わくわく川清掃&川あそび〜元気を送ろう東北の海へ〜」 【主催】わくわく川清掃&川あそび実行委員会

「第19回わくわく川清掃&川遊び」が落合川沿いの不動橋広場で開催されました。会場には東北の海産物支援販売ブースも設けられました。前夜祭の1日目は野外コンサート・映画上映の催し、やきとり屋・スーパーボールすくいなどの出店の他、新河岸川流域の地形や総合治水について理解を深めるコーナーが設置され、子どもたちは地形が立体にみえる3Dマップに興味を示していました。2日目は川清掃をした後、ジェット風船をスタートに、魚とり、川あそび、消防放水体験などが行われ、最後にスイカ割り・「みずガキ大賞の発表」と、沢山のイベントに子どもたちはびしょぬれになりました。



7/21 東川 「東川・川まつり（身近な川しらべ）」 【主催】東川を愛する会

「東川・川まつり」が東川沿い所沢市立東中学校前で開催されました。はじめに参加者全員で川の掃除をした後、きれいになった川で魚とりやカヌー遊びをして楽しみました。とれた魚を水槽にいた魚教室のコーナーでは、沢山の種類の魚を、みんな興味深そうに見比べていました。長細いカヌーを上手に操縦するのは難しくでしたが、何回か繰り返し乗るうちに、コツをつかんで上手くなった子も！

東中学校のすぐ隣にある東川は昔から地域の子ども・大人に親しまれてきました。これからもみんなに愛される川にしていきたいですね。



7/28 柳瀬川（清瀬） 「きよせ川まつり 2012」 【主催】きよせ川まつり実行委員会

「きよせ川まつり2012」が清瀬市の柳瀬川沿い台田運動広場で開催されました。川まつりは清瀬第四小学校の生徒2名による開会宣言と参加者全員によるラジオ体操で始まりました。準備運動の後に、毎年恒例の魚とりとボート遊びをしました。祭りの締めは、手作りいかだコンテストでした。今年も趣向を凝らしたいかだで全10チームが参加しました。優勝はせせらぎ探検隊で、今回で3連覇の快挙となりました。子どもたちはペットボトルでつくったいかだに大はしゃぎでした。



7/29 柳瀬川（志木） 「こどもとおとなの自然塾『川の生き物を調べよう』」 【主催】NPO 法人エコシティ志木、(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

「こどもとおとなの自然塾『川の生き物を調べよう』」が志木中学校前の柳瀬川沿いで開催されました。はじめに、河原や堤防のゴミを拾いました。その後、川の中の石をひっくり返し、裏に生きている水生生物を調べました。続いて、網を片手に魚とりがスタート！はじめは魚を追いまわしていた子どもたちも、魚を網へ追い込むことをスタッフに教えてもらってから、少しずつとり方がわかってきたようです。最後に、つかまえた川の生き物の特徴や新河岸川流域についてスタッフから説明がありました。親子で川について色々学べる川まつりでした。



8/5 黒目川（新座） 「第14回わいわい川遊び『アユの棲む黒目川をきれいにして川で遊ぼう』」 【主催】黒目川流域川づくり懇談会

「第14回わいわい川遊び」が黒目川沿いの栗原1丁目公園で開催されました。14回目とあって毎年楽しみにしている近所の子どもたちが大勢集まり、炎天下の中でわいわいとはしゃぐ子どもたちの元気な声が黒目川に響いていました。はじめに参加者全員で川の掃除をした後、魚とりやゴムボート、スイカ割り、魚の勉強（水が講座）とたくさんのイベントにみんな夢中でした。中には、水中メガネ持参で本格的に泳ぐ子どもや、初めて川に入った子どももいました。地元の川である黒目川を楽しむことができた川まつりは子どもたち一人一人にとってとても貴重な思い出になったのではないのでしょうか。



8/5 北川 「第17回北山わんぱく夏まつり」 【主催】東川を愛する会

「第17回北山わんぱく夏まつり」が北川沿いの北山公園で開催されました。開会宣言がされた後、魚とり、カヌー、昆虫採集、草笛、紙芝居など多くの催し物が始まり、会場は一気にお祭りムードになりました。魚とりでは、はじめは思うように魚がとれなかった子どもたちも時間の経過とともに、網を使うのに慣れ、たくさんの魚や水生生物をつかまえることができました。一番人気はカヌーで、カヌーに乗るための長蛇の列が川まつり終了の時間になっても続いています。自然と触れ合うことで、子どもたちは目を輝かせていました。



8/5 不老川 「第13回鳥になろう 魚になろう『大森の池まつり』」 【主催】大森の池まつり実行委員会

「第13回鳥になろう 魚になろう『大森の池まつり』」が不老川の大森調整池で開催されました。近くを流れる不老川での魚とりでは、今年初めてのアブラハヤがとれました。その他、駿河台大学の協力で行われた調節池でのカヌー、魚の展示、ザリガニクイズ、昆虫観察、水鉄砲、シャボン玉づくりなどの催し物がありました。出店では、地元でつくったパンや野菜が販売されました。日差しが照りつける中、440人が参加した今回の『大森の池まつり』。普段はなかなか味わうことのできない体験を、参加者は得ることができたのではないのでしょうか。



8/26 黒目川（朝霞） 「黒目川・川まつり おとなも子どもも、ハンディのある人もない人も」 【主催】黒目川川まつり実行委員会

「黒目川・川まつり」が黒目川新高橋下流左岸で開催されました。川まつりは河原の掃除から始まり、遊ぶだけでなく、川をきれいにする気持ちを参加者全員で共有しました。その後、水ガキ講座、魚教室、ザリガニ釣り、船遊び、スイカ割りなどが行われました。ザリガニ釣りは例年通り大盛況で、子どもたちがたくさんのザリガニを釣りあげていました。どのイベントにも長蛇の列ができ、子どもたちは夏休み最後の日曜日を思う存分楽しんでいました。そして、子どもたちを見守っていたお父さんお母さんの笑顔も素敵でした。



※今回は流域内での活動の一部を紹介しました。流域内ではその他にも様々な活動が実施されています。また、市民の方々から写真を提供いただきました。



その水はどこからきて？どこへいく？ 水の行き先を追ってみよう！



授業の様子



① 宿題

「空からふってくる雨水」、「学校・家の蛇口から出てくる水」がどこからきて、どこへ行くのかを事前に調べてきてもらいました。

② ワークショップ

みんなが調べてきた身の回りにある水の行く先を付箋に書き、模造紙に貼り付けながら行く先を線でつなぎ、班ごとにみんなで考えた水の循環をまとめました。



③ 発表

ワークショップで作った水循環のつながりについて発表しました。



空から降ってくる雨水、水道の蛇口から出てくる水など、私たちはあらゆる場面でさまざまな水と関係しながら生活しています。さて、その水はいったいどこからやってきて、どこへ行くのでしょうか？

今号では、北区立浮間小学校 5 年生のみなさんにご協力をいただきながら、児童のみなさんの目線で生活の中にある水循環について調べてみました。

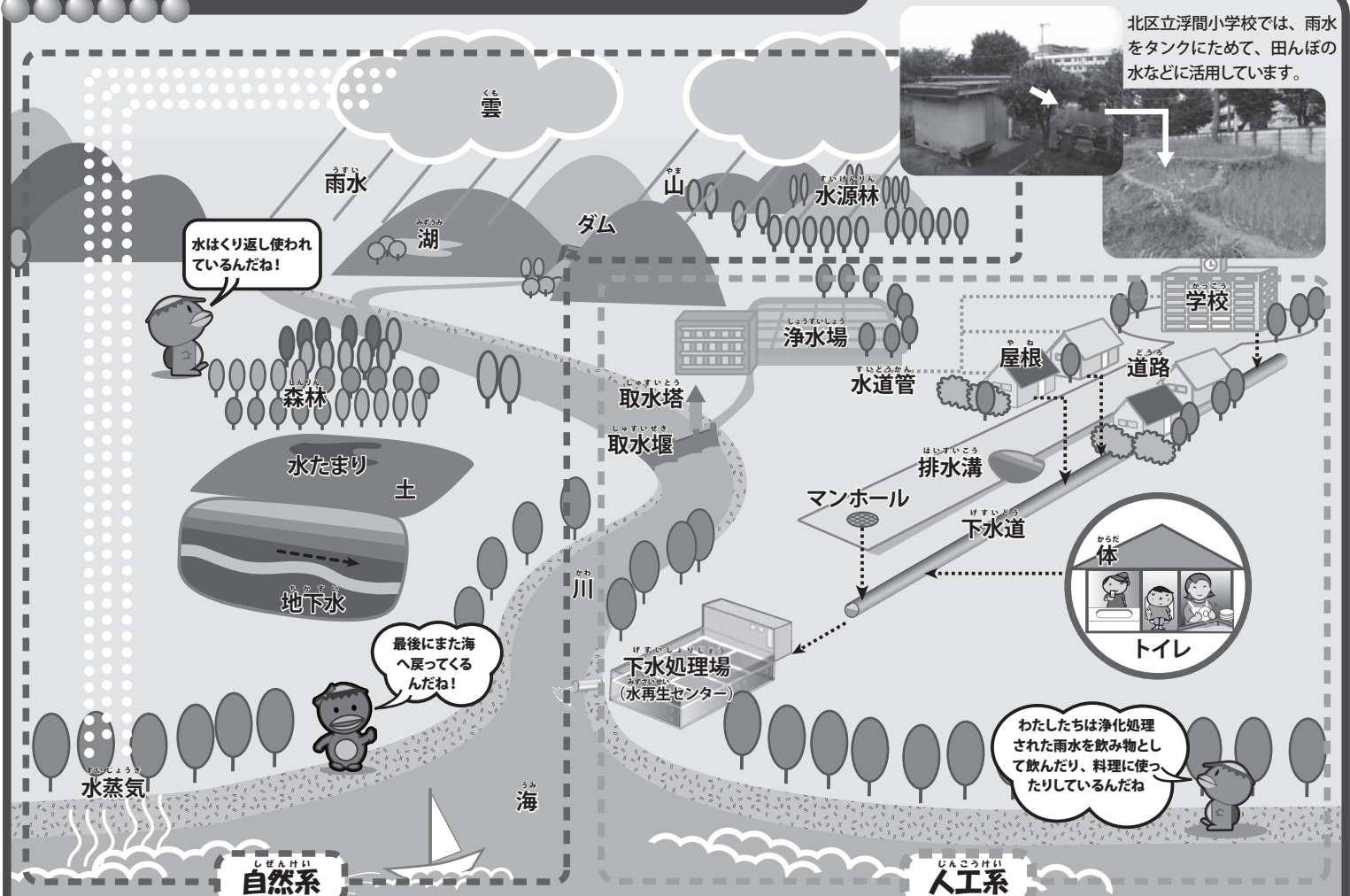
④ 学習

各グループからの発表のあとに、水の大きな流れや昔と今の雨水の流れ方の違いなどについて、水循環に詳しい先生から説明してもらい、より深く水循環について理解しました。



授業を通じてみんなで考えた水循環のイメージ

※授業での成果をもとに作成した水循環の一部です。



北区立浮間小学校では、雨水をタンクにためて、田んぼの水などに活用しています。

わたしたちは浄化処理された雨水を飲み物として飲んだり、料理に使ったりしているんだね

もっと知りたい！水循環！

Q 昔のように土の地面のほうが水がしみ込みやすいのに、なぜ今はしみ込みにくいアスファルトの地面が多いのですか？

A 1964 年の東京オリンピックの開催に向け日本の産業が高度に成長した時代に、日本でも自動車がたくさん走ることになった。そのため、それまで土だった道の多くは自動車が走りやすいアスファルトの道に変わったのだよ。最近では地面にしみ込みやすいアスファルトも使われているんだ。

「水循環」とは、海の水が蒸発し雲となり雨を降らせ、雨水が大地にしみ込み、地下水や河川水になって流れ、その途中でさまざまな場所で人々に利用されて、再び海にもどる水の大きな流れを意味します。この水の流れでは、自然が本来持っている水の循環の経路と、上水道や下水道などの人工的な水の循環の経路とがあり、私たちの生活の中で両方が繋がっています。

監修：公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会